

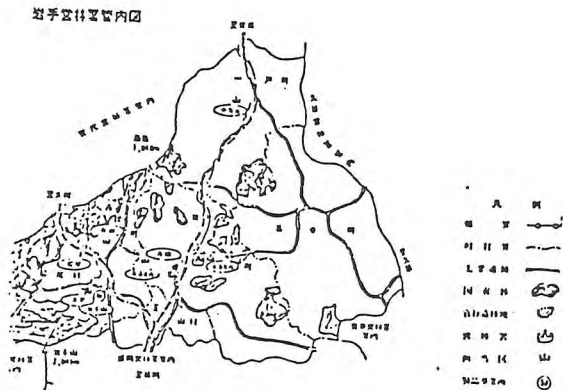
## 19. 国有林と地域のかかわり

岩手営林署      高橋保男   ;   高村 満   ;   高見博子

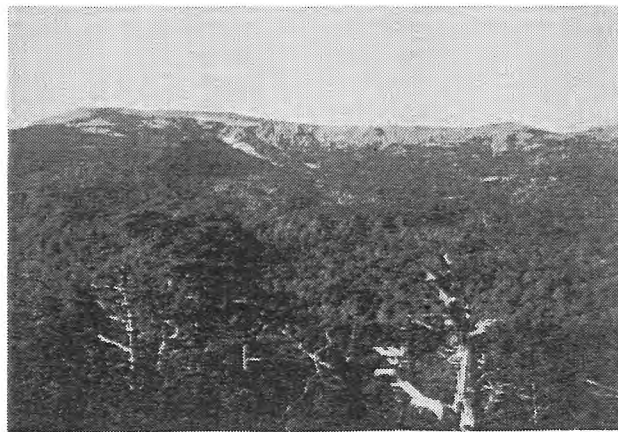
### 1 はじめに

岩手営林署管内の国有林野は、岩手町、一戸町、葛巻町、西根町、松尾村の4町1村で岩手県の内陸北部に位置しています。その管理面積は、約29,000haと全面積の20% 森林面積の26%を占めています。

又十和田八幡平国立公園をはじめとして岩手山や松川温泉、御在所温泉、藤七温泉など、静かなたたずまいを感じさせる温泉郷と、八幡平、八幡平リゾート、松川プラザ、下倉プラザ、三ツ森、西岳、そして安比等のスキー場やペンション街と夏冬を通して、観光のメッカとなっています。



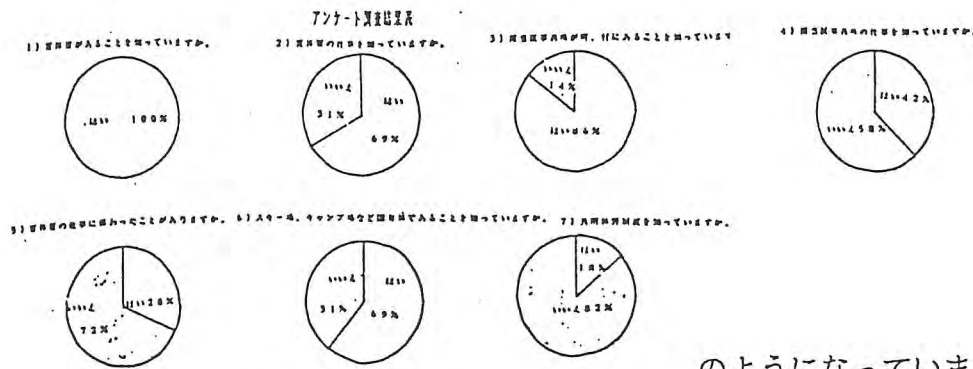
(岩手営林署管内)



十和田八幡平国立公園



アンケートの結果を円グラフで表してみますと



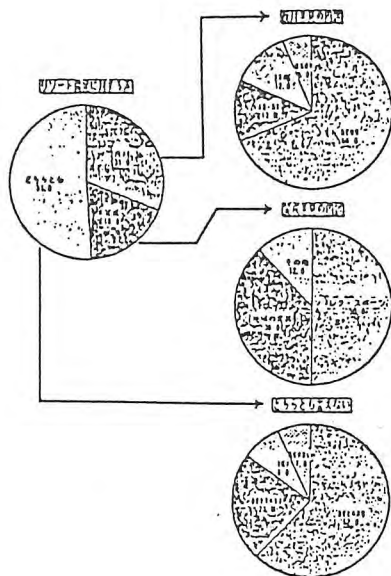
のようになっています。

営林署や担当区を知っている方は多かったのですが、「仕事の内容は？」とお聞きすると、かなりの方が「わからない」と回答され、ここでもPRの足りなさを感じることが出来ました。

### 3 問9のリゾート開発等に対する声

反対 62人 賛成 35人  
 どちらとも言えない 103人 の方に

その理由を伺いますと



反対 自然破壊につながる 69 %  
 水害や汚染が心配 13 %  
 企業の利益だけに感じる 12 %  
 動物がいなくなる 6 %

賛成 レク、スポーツの場として 50 %  
 地域の発展、活性化 38 %  
 その他 12 %

#### どちらとも言えない

地域の活性化には必要だが、自然との調和が必要 62 %  
 自然をそのまま生かした開発であってほしい 23 %  
 手続きなどに時間がかかる 8 %  
 もっと情報が欲しい。よく分からない。 7 %

この結果を見ますと「何が何でも反対」といわれる回答の方でも、自分の足を運び、目で見て、実感したというよりも、誰かの話を聞いたり、新聞などを見て、「それだったら反対だ」というようにマスコミや立場、役割のある方々の発表をそのまま信じて、自分の意見として話したり書いているように 何人かの方との対話を通して感じる事が出来ました。

しかし別の側面もあり「営林署や担当区はこのようなはたらきをしていますよ」という自己PRが必要だと思いました。

例えば、専門的なことでも、子供にも、お年寄りにも理解していただけるように◎分かりやすく ◎何度でも ◎あらゆる機会を通して お伝えしていくことは今一番必要とされ、問われていることではないでしょうか。

「問われるまでは知っていた」しかし、更めて問われると 正しく伝えることが出来なかったことは、国有林野に籍を置いている一人として、深く反省しているところです。

#### 4 考 察

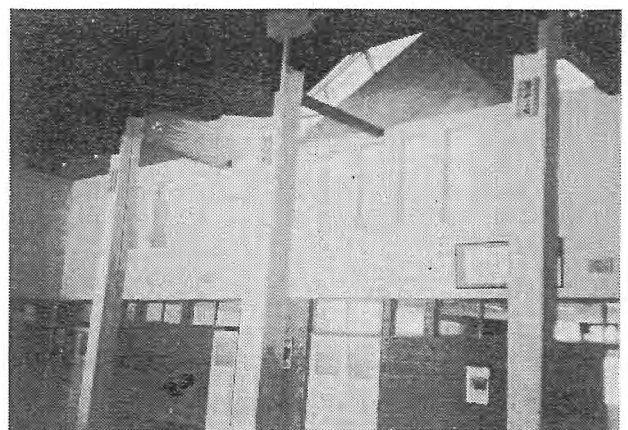
かつて営林署や担当区と言えば、働く場の提供や薪材、稼業用資材、自家用資材等相互に依存する機会も多かったのですが、時代の求めるニーズや生活様式の変化、又規則や通達等から見て=今までのかかわりから、新たなかかわりへと変化してきました。

しかし、小さな要望でも叶えてあげられる可能性を模索しつつ、地域との対話の機会を大切にしながら、国有林をPRしてゆく一翼を担っていきたいと思っています。

その一つとして

松尾中学校多目的ホール建設に寄せた増川営林署との出会いがありました。管内にはないのでちょっと難しいですと、断ることも出来たかもしれませんが、その間をとりもち、御苦労された方々の努力がこうして伝えられ「多くの方々の生きる指針となっている」ことを考えますと”一肌ぬいで少しでもお役に立っていききたい”という願いを引き出される思いがいたします。

(別 紙)



3本柱の 樹訓





しいたけのほだ木

#### 二つめとして

松尾村しいたけ組合長より

しいたけほだ木の乾燥を防ぐために、何とか”切ったばかりの新しいスギの枝を手に入れたい”との要望がありました。

林業経営上、枝打ちを行うことは最近まれなことであり、加えて、スギ立木が管内では少なくなっている昨今ですが、「何とか叶えてあげたい」こととして、関係者と相談の結果、分収造林カ所の枝打ちを”村が行い”その枝を利用したものです。

こういう視点は今まで無かったことですが地域の方々との出会いの中で、教えていただいたことでした。



スギの枝を敷いた所

又一方では、稼業用資材の随意契約枠の関係で、要望に応えられなかったこともあり

あいだ  
間をつなぐことが出来なかったこととして痛みとなっています。

最近、地元の役場やスキー場、東北電力、NTTと採草地等わずかな個人貸付地とのつながりしか目立っていないように思われますが、もっと多くの機会に出向いて行って国有林について、森林や地域開発についても一人一人がPRマンとして、年令を越えた多くの方々と対話できるように、かかわりを大切にしていきたいと願っています。